

令和4年4月18日

特別の教育課程編成・実施報告書

長崎県			
学校名	管理機関名	設置者の別	校種
長崎県立壱岐高等学校	長崎県	国・ <input checked="" type="checkbox"/> 公・私	小・中・ <input checked="" type="checkbox"/> 高・中等

1 特別の教育課程の編成	
<p>(1) 必要となる教育課程の基準の特例の内容</p> <p>特別の教育課程を行う本校の「東アジア歴史・中国語コース」においては、数学、理科等の教科において科目の削減を行い、学校設定教科である「東アジア学」の単位数に充当した。コース内に歴史学専攻と中国語専攻の二つの専攻を設けて、1年次は歴史学と中国語の両方を学習し、2年次から一方の専攻に分かれる形態をとっている。(別添1：令和3年度入学生教育課程表参照)</p> <p>(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性</p> <p>県の「高校生の離島留学制度」に基づいたコースであるため、地域の特色や県の制度を活用した教育課程を編成することが必要である。地域の特色とは壱岐島内の国指定特別史跡である原の辻遺跡や長崎県埋蔵文化財センターの存在であり、県の制度とは中国語の外国人指導者の派遣である。それらを活用するために「東アジア学」を設定した。</p>	
2 取組の期間	
<p>・特例の適用開始日 : 平成20年4月1日 (構造改革特別区域認定による特例の適用開始日：平成16年4月1日)</p> <p>・変更した特例の適用開始日：平成22年4月1日</p> <p>・取組の終期 :</p>	
3 特別の教育課程に基づく教育の実施状況	
<p>(1) 実施体制</p> <p>①特別の教育課程に基づく教育を実施するための体制(校務分掌等)について</p> <p>標記の教育の実施における体制として、学級担任及び副担任(地歴公民科教員や中国語指導教員を含む)、東アジアコース主任、教務主任で構成した東アジア歴史・中国語コース会を設けている。また、離島留学制度で入学した島外出身生徒の生活支援等に対しては、教頭、学級担任、学年主任等からなる「離島留学委員会」や里親と連携を行う「里親連絡協議会」を設けている。</p> <p>②実施状況の評価方法とその評価について</p> <p>評価項目を「特色ある離島留学制度の推進」等とし、5つの具体項目を設定し、それぞれに対する具体的方策を掲げて年度毎に評価を実施している。(別添2：令和3年度学校評価 項目別評価表(抜粋)参照)</p> <p>(2) 指導計画及び授業の内容</p> <p>特別の教育課程に基づく授業を実施するために設定した学校設定教科「東アジア学」において、合計8科目(歴史学入門・考古学入門・アジア交流史・課題研究・基礎中国語・中国語会話・中国語購読・中国歴史文化研究)を設定した。(別添3・別添4参照)</p>	

(3) 児童・生徒への教育上の配慮等

学校設定科目の履修者は少人数であるため、野外実習やレポート作成等の場面において、各生徒に対し個別指導をすることができる。中国語・歴史学ともに授業だけでなく、授業時間以外での指導を個々に行っている。また、県からの補助を受けて、「高校生の上海語学研修」や「歴史学巡検」等の研修事業を実施することで、経済的負担を軽減し、実践経験を積むことができる。

(4) 情報提供の状況

本校の離島留学制度や東アジアコースについては、次のような情報発信や広報活動を行っている。

- ①島内、島外中学校への訪問・説明会を実施
- ②県教委主催の離島留学説明会における説明（長崎県内・福岡県・大阪府・東京都等で実施）
- ③壱岐市と連携した広報の実施
- ④フェリーターミナル等でのポスター掲示や学校・東アジアコース案内の各種機関への配布
- ⑤学校ホームページや学校便り等において東アジアコース生徒の活躍や行事等を紹介
URL : <http://www2.news.ed.jp/section/iki-h/>
- ⑥年1回の東アジアコース紀要の発行と関係学校・機関への配布
- ⑦地元ケーブルテレビや新聞等、各メディアへの出演や掲載
- ⑧年2回の東アジアコース宿泊体験・体験入学の実施
- ⑨課題研究や教育活動の発表（別添5：令和3年度東アジア歴史・中国語コース研究発表会実施要項参照）

4 実施の効果、課題と今後の取組

(1) 実施による効果

- ①中国語スピーチコンテストや歴史論文コンクール等各種大会での入賞
- ②中国語検定や歴史検定等、各種検定資格の取得
- ③上海外国語大学や国内大学の歴史学科・中国語学科系統への進学
- ④中国語を生かした一般企業への就職

(2) 課題と今後の取組

本コースへの入学者はこの3年間10名を超えて一定している。一方で、担任や副担任を複数配置することで、従来と同様に、生徒に対するきめ細やかな指導や配慮に努めている。今後は、東アジア歴史・中国語コース会をさらに充実させ、今まで以上に生徒へのサポート体制や教職員の連携を充実させていく必要がある。また、本コースは地域の特色を活かした教育活動を行っているため、地域創生を念頭に、充実した情報発信を継続させ、学校説明会や体験入学などで入学予定者との理解を深めながら、入学者数の増加、特に地元中学校からの入学者の確保に努めていかなければならない。なお、中国語、歴史学の両方で、教育活動の成果や進学実績が向上しているため、この点も外部に積極的に発信し、本コースの発展と地域への貢献に努めていきたい。